

Ⅱ 学校経営上の基本課題

1 地域の特徴

- 本校は鶴岡市の南東部に位置する斎地区のほぼ中央にあり、勝福寺・我老林・斎藤川原・伊勢横内・八ツ興屋・遠賀原・外内島の7地区を学区としている。
- 地域産業は米作・畑作・ハウス栽培等を中心とする農業が中心であるが、農業を専業とする保護者は少なく、多くが勤めに出ている。夫婦共働きの家庭も多いため児童の学童利用率が極めて高い。
- 農業地帯では3世代同居も多いが、市街地に近い地区ほど核家族が多い。特に斎藤川原・外内島地区では新興住宅地化が進み児童数が多い一方、旧来の地区では児童数の減少傾向が進み、地区間の児童数格差が広がっている。
- 市街地周辺の都市化傾向により豊かな自然は遠ざかりつつある。また、農免道路開通に伴い、学校周辺道路の交通量が増大し、登下校における交通安全には十分配慮しなければならない。

2 教育課題のおさえ

【予測困難な時代を生き抜くための変化に対応できる力の育成】

人口減少の加速化、気候変動と自然災害、グローバル化の進展と国際環境の複雑化、VUCA の時代、共生社会・社会的包摂、Society5.0 の到来など、私たちを取り巻く社会的状況は非常に複雑で予測困難なものとなっている。そうした時代を生き抜くために、自ら考え、判断し、主体的に行動する力、変化に対応する力が大切になってくる。また、時代の変化を敏感に捉え、失敗してもあきらめず新たな価値を創造する力を育むことが求められている。

【多様な個人を尊重し、包摂社会に寄与する態度・姿勢の育成】

少子化社会の中で、全てにおいて恵まれて育ってきている子どもが多い。また、人間関係の希薄さに加え、実体験や心象体験も少ない中で成長している子どもたちは、具体的な目標を持ち自分を高めようとする意志、他者意識を持って共に力を出し合って創り出そうとする意志が弱くなってきている。教育活動全般を通して、子どもに夢を持たせ前向きに生きようとする力を醸成する指導が重要である。また、誰一人取り残されず、誰もが学び続けられる学びの機会の充実し、個性を活かし尊重した学びの実現が求められている。

【DX や少子化、地域との連携等、様々な変化に対応した学びの環境整備】

ICT の活用が日常化し、学ぶ場所を自由に選んだり、教育データを活用したりして、リアルな体験と組み合わせた一人一人に合った学びの実現が可能な時代である。社会の変化に対応した学びの環境を整え、きょういく DX の推進、デジタル人材の育成が求められる。また、活力あふれる学校を実現するために、家庭や地域と役割分担をしながら、外部人材の活用など教育環境の整備、指導体制の強化に努めていかなければならない。

【本校児童のよさと伸ばしたい力】

- <良さ>○素直で真面目 ○心が安定している ○与えられた課題に一生懸命に取り組む
○心優しく思いやりのある子ども ○他と関わって学ぶ力が伸びている
○基礎・基本の定着
- <伸ばしたい力>▲積極的に挑戦する態度・失敗経験を受け入れる姿勢
▲関わり作り、折り合い作りと自己有用感と他者理解
▲読解力、応用・活用する力、表現力の向上
▲自己管理の力・規範意識(生活リズム、メディアとの関わり)
▲主体的学び、家庭学習の質の向上

Ⅲ 経営方針

- 1 教育活動は人格形成をめざす活動であるという認識に立ち、21世紀を生きる子どもたちに「生きる力」と「確かな学力」を育み、学校教育目標、重点目標の実現に全力であたる。
- 2 集団生活を通じた指導と個のニーズに応じた指導の両輪の中で、一人一人の子どもの能力・特性を生かし、伸ばし、「子どもの成長と幸せ」のために最大限の努力を払う。
- 3 めざす子ども像を児童・教職員、保護者、地域で共有し、「元気」「本気」「笑顔」～学校に関わるすべての人の元気・本気・笑顔があふれる学校～をキーワードに、活力ある学校づくりをめざす。
- 4 保護者や地域に信頼され、心から応援してもらえる「安全で・安定した学校づくり」に全力をあげる。